

キャラクター名 クララ・アルヴァレス・ロサーノ	プレイヤー名
----------------------------	--------

シンドローム	サラマンダー	ワークス	セカンダリB	カヴァー	高校生
	サラマンダー		年齢	16	性別
オプション					
覚醒	素体	衝動	破壊	初期侵食率	22 %
出自	姉妹	経験	死と再生	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	4		0			4	行動値	4
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	4
精神	2		0			2	戦闘移動	9
社会	2		0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:レネゲイド	1		情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣+地獄の氷炎	白兵	4r-2	6	11(32)		攻撃力に《地獄の氷炎》適用 EAP107,110
	白兵	10r-2		32		CR+炎神 7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ:UGN幹部					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
姉	P 幸福感	N 悔悟			
実験の犠牲者	P 遺志	N 悔悟			
"マスターシャドウ" スティープ	P 執着	N 敵愾心			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:	3		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
氷炎の剣 5	5	4	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン中武器作成,装備 EAP107							
地獄の氷炎 7	7	3	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果:	《氷炎の剣》と組み合わせて使用 攻orG値+[LV*3] 使用時に選択 EAP110							
氷の回廊 7	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	飛行状態で戦闘移動を行う距離+[LV*2]m EAP106							
CR:サラマンダー 3	2	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	組み合わせた判定のC値-LV(下7) EAP129							
炎神の怒り 5	5	4	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	判定ダイス+[LV+1]個 HP-3(消費)EAP105							
たゆまぬ墮落 5	1	7	オート	視界	単体	自動	Dロイス	
効果:	対象が「難易度:自動」のイフェクト使用直後に宣言 その効果を打ち消す エネミーイフェクト、「制限:-」以外のイフェクトに使用不可 シナリオLV回 OEP15							
超人的代謝 1	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	身体が丈夫 よく食べる EAP133							
不燃体 1	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	燃えない EAP111							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

PC1用ハンドアウト
シナリオロイス “マスターシャドウ” スティープ P 執着/N 敵愾心
カヴァー/ワークス 高校生/セカンダリア~D
指定Dロイス: 変性:臨機剛健

30年前、キミは高校生として日常を送っていた。だがある日、スティープという青年に出会った。彼は、キミが幼少の頃に受けた実験で、その身に最強の対抗種を宿している事を伝えた。理解もできず、全く見にも覚えも無い話だったが、彼と出会ったことで覚醒することになる。そして彼は、キミへの復讐を宣言した。UGNエージェントとなったキミとスティープとの戦いは奇烈を極め、最終的にキミが勝利を手にする。だが自らの対抗主に触まれ、キミもジャーム化することになった。
時を戻して現在、日本にてFHマスターエージェントの活動が報告された。その姿は青年スティープそのものであった。諜報に向かったUGNエージェントは消息不明。打つ手がないUGNは遂にキミを自覚めさせた。そしてキミのレネゲイドもまた、歩みを始めた。

◆公開情報 PC1の過去 判定不要
以下は、30年前に判明した情報。UGN側で把握している情報でもある。
PC1は子供の頃FHに攫われ、中東の紛争地でレネゲイドの研究に利用されていた。プロジェクトアダム・カドモンに対抗したFHの極小一派が、同時期に進めていた研究で、対オーヴァード兵器の研究開発が目的だった。その為に世界中からレネゲイドに適正がある子供達が集められていた。
PC1は、ここで偶然完成した対抗種(カウンターレネゲイド)と、奇跡的に適合した被験体である。殺傷力の高いレネゲイドであるが、宿主の負担も尋常ではない為、PC1自身に負担をかけるような実験は適合以降おこなわれてない。むしろ被害を受けたのは他の被験体であった子供達で、PC1が適合したために用済みとなり、対抗主を試す為に利用された。
PC1のレネゲイドを投与され、子供達がデータと引き換えに命を落としていく中、唯一生き残った少年がスティープである。彼のレネゲイドは、対抗種に触まれながらもそれを吸収しようとした。本人にとっては多大な苦痛が伴っただろうが、その特殊なレネゲイドによって一命を取り留めた。これはウロゴロスと呼ばれるシンドロームによるものだが、当時はまだその存在を認識されていなかった。